

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400073
法人名	株 だんだん
事業所名	グループホーム つるかめ
所在地	西予市野村町野村2-109-1
自己評価作成日	平成25年11月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年12月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲には中学校、神社や病院、多くの住民の話が出来る。田畑、ホタルの生息地など新しくも古い物が共存している、近所の方に畑作を習い通り係の方といつでも話が出る。また、施設内では自分の能力を生かせるよう、1日のスケジュールを自主登録と一部支援でいかせるようホワイトボードにはってある。専門講師による機能訓練などで立ち上がり練習、歩行訓練など利用者に合わせ機能訓練ができる、いつまでも自分の足で歩けるよう支援している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時には、近所の方にあいさつに回られた。事業所見学会には多くの地域の方が来られ、設備等を見て感心されたり、「きれいね」と感想をいただいたようだ。9月には、「第一回つどい」行事として観月祭を開催された。近所の方にも案内して、10名ほどの参加があり、一緒に地域の子どもの踊りや琴演奏を楽しまれた。隣接する畑の方が野菜をおすそ分けしてくださったり、又、調査訪問時には、隣家の方にいただいた菊の花を玄関に飾っておられた。  
利用者の方からの提案で、般若心経を唱える時間を持っておられる。午前・午後、一日2回、玄関のスペースに集まり、お釈迦様の掛け軸とろうそく型のライトを灯し、お経のCDを流しながら唱えておられ、利用者の心穏やかな暮らしにつながっているようだ。  
外部講師からの提案もあり、居間のホワイトボードには、利用者の名前と時系列の表を作り、「般若心経」「入浴」「受診」等、一日の過ごし方の表を作っておられる。

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームつるかめ

(ユニット名) つる

記入者(管理者)

氏名 古田 康子

評価完了日

25 年11月20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			理念に基づき、当施設のイベントの際は近隣の住民の方にも声掛け参加して頂き、又、利用者さんも役割を持って自分で選択し一日でのやりたい事を決める。自分らしく落ち着いて生活できるよう支援している。	
			(外部評価)	今後さらに、チーム一丸となって利用者の暮らしを支えていくためにも、利用者にかかわる方達とも理念を共有できるような取り組みをすすめていかれてほしい。
			法人代表者は、「選択する自由と安心できる生活を送れる」ように理念をつくり、開設時には「開放的なホームを作りたい」等、職員に思いを話された。理念は、玄関に掲示されており、又、パンフレットにも示されている。管理者は、日々の中で職員に、「利用者一人ひとりが生活を選択できるような支援」の大切さを話し、意識して取り組めるよう導いておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			利用者さんと散歩や買い物は近くのスーパーを利用し挨拶や会話などの声掛けをし地方行事には積極的に参加し楽しむ。	
			(外部評価)	管理者は今後、地域に向けて事業所便りを作り、銀行や病院にも置かせてもらいたいと考えておられた。今後さらに、地域の方達と知り合えるような機会を積極的に作り、地域との関係作りに取り組みしてほしい。運営推進会議等も活かして、いろいろな方に事業所のことを知っていただき、理解・協力を増やしていかれてほしい。
			開設時には、近所の方にあいさつに回られた。事業所見学会には多くの地域の方が来られ、設備等をみて感心されたり、「きれいね」と感想をいただいたようだ。9月には、「第一回つどい」行事として観月祭を開催された。近所の方にも案内して、10名ほどの方の参加があり、一緒に地域の子どもの踊りや琴演奏を楽しまれた。隣接する畑の方が野菜をおすそ分けしてくださったり、又、調査訪問時には、隣家の方にいただいた菊の花を玄関に飾っておられた。管理者は、「地域の方が気楽にお茶を飲み立ち寄りしてくれるような事業所を作りたい」と考えておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			地元の方に入所頂いたり、門扇もつけず常に解放感と常時に人々の顔や声かけに耳を傾けている。利用者の動きが周囲の方に目に留まるようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 現在までの開催は3回ですが、市役所、民生委員、利用者、家族とそれぞれの立場の方に意見や方向性、施設の活動に向けてで提案を頂きより良い施設に取り組む。</p> <p>(外部評価) 会議には、区長や地区の組長の方、民生委員、利用者やご家族等が参加されている。会議では、事業所の利用状況を報告されたり、昼食の時間に合わせて会議を行い、備蓄している非常食の試食会を行ったこともある。管理者は、会議を「話すだけの会議ではなく、メンバーに参加、体験してもらえよう会議にしたい」と考えておられた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月1回のケアマネ会には出来るだけ出席し施設や地域の情報を得ながら認定調査など利用者の様子や施設の理解をいただくよう努力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議を捉えて、事業所の状況を知ってもらったり、運営等について質問しながら、取組みをすすめておられる。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期、不定期の職員会や専門講師を招いて研修会しながら、認知症を介護については直接、間接で職員全員で取り組む。施錠は解放的であるが身体拘束には少しの事も見逃さないよう話あう。</p> <p>(外部評価) 玄関は自由に出入りできるようになっており、調査訪問時には、ひとりで散歩に出かける利用者の様子がみられた。居間からは出かけていかれる様子が見え、いつものコースのようだと見守るようにされている。利用者の落ち着いた状態や、荷物をまとめるような様子がみられた時に出かけて行く場合は、利用者の様子を見守りながら、付き添うようにされている。ベッドからの立ち上がり時、転倒の心配がある方には柵に鈴を付けたり、足元に滑り止めマットを敷いて対応されており、中には、センサーを付けている方もあり、音が鳴ると職員が居室の様子を見に行くようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部研修に講師を招いて虐待や利用者さんの心のケアを学ぶ、施設内では認知による言動の暴力等を早期に対応する。小さい事も見逃さないよう職員全員で取り組み発言ができる。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 当施設に講師を招いて受講し外部研修などに参加し職員会や申し送りで伝える。今後は家族や利用者にとって有効な提案ができる研修を生かしたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所前は自宅に訪問し今までの生活状態や機能障害、家族の思い等を十分に聞いて、施設の説明は納得頂くまで説明します。文章による説明と了解は必須である。本人の了解が第一である、納得して入所頂く。退所に於いても入所時に説明している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月、ユニットごとのカンファレンスを実施、イベントなど家族が来られた時に家族の要望などをおききする、要望をコックリと聞き取組み対応する。	
			(外部評価) ご家族の来訪時には、居室でゆっくりお話ができるように、職員は、お茶をお出しして気配りされている。又、少しでも長い時間利用者とお過ごしてもらいたいという思いを込めて、食事時間にかかるような時には、ご家族も一緒に食事できるように誘っておられる。ご家族は、おやつを差し入れして下さったり、利用者が居間に集い過ごされる様子を見て、「あったかい雰囲気だね」と感想を話されるようだ。9月から、毎月のご家族への送付書類の中に、利用者個々の担当職員からの利用者の近況報告書を同封することを始めておられる。管理者は今後、家族会を行い、ご家族の意見等もお聞きしながら取り組んでいきたいと考えておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 申し送り、職員会等においてそれぞれの立場で意見や方向性を説明し会議の議題を活用している。提案には実践できるよう話し合いで決める。	管理者は、職員のケアの技術の向上を課題に感じておられる。講師を招き定期的に研修等も行っておられるが、今後は、職員が外部研修等も受講できるよう取り組みたいと考えておられる。職員のチームワーク作りからも、ケアの質向上を目指していかれてほしい。
			(外部評価) 自己評価は、職員で項目を分担して取り組まれた。介護経験の少ない職員も複数おられるが、管理者は、自己評価をまとめる際、「職員が利用者の立場で考えることが少しずつできてきている」を感じられたようだ。管理者は、職員に意見や提案を出してほしいことを伝え、ソファール・いすの配置等も一緒に考えながら、利用者の暮らしの環境作りに取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 開所して間もないので職員の環境も変化しつつ、利用者と共に作りあげてゆく、施設を継続するには勤務条件も変化しながら生き甲斐のある仕事と職員の意欲を上げる方向で改善している。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) サービスの質の向上の為、地域GHの組織に参加し、会が主催の研修に職員は積極的に参加したり、施設内でも優秀な指導者が来所、細かい指導をうけ利用者のリハビリを行う、又、経験の長い職員の実技指導も受けている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 県のGH連絡協議会に参加し、会主催の報告書や実技研修などに交代で参加自己研鑽しサービスに生かせる職員の能力の能力向上に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時は利用者にとって不安や不信で人間関係が成り立たないので常に利用者を見守り声掛けに注意しながら安心して住める環境を作る。本人との信頼関係は日々の生活の中で構築できるよう職員全員で取り組んでいる。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所時は面会も多くあり、その都度家族に状況の説明や不安定な事の解決法など聞く、不安な点も事実を細かく説明する、家族が遠方の方は月1の報告書に写真や文章を添付、メモ等で状況報告などする。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の申し送り、職員会やカンファレンスで変化や新しい情報を活用し職員全員で生かせる努力をする、家族には面会の都度要望や情報の確認をする。本人、家族のニーズや今までの生活の様子で改善策を見つけたり出来る</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>10人十色で困難もあるが、その方の特技を生かし多くの方と交流し、声掛け共通のゲームや話題、共同作業で笑顔が出来るよう過ごすよう。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会時を大切にしながら家族がお互いに信頼関係を構築できるよう積極的に日常生活の報告に心がけている。職員全員が利用者や家族にも声掛けしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>初期訪問時や本人を援助する地域の方など情報を持つての方の話を活用しながら生活に生かすようにしている、例えば趣味、友人、兄弟の方の面会を大切に対応している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員の提案から室内で「第一回運動会」を開催された際には、準備時、利用者と玉入れの玉等を手作りしながら、それぞれが思い出話をされたようだ。利用者のお話の中で職員は、「昔の運動会のうた」のを知り、当日は歌を知っている利用者が歌って開会をされたようだ。毎月ご家族に送付する担当職員からの近況報告書には、写真も採り入れておられ、ご家族に利用者の表情等をみていただき、きずなをさらに深めていただきたいと考えておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 本人や利用者と一緒にすごせるホールではソファを設置し自由に座って過ごす。食事やゲーム時の利用者同士の交流も大切に支援する。玄関ホールにも畳スペースでは般若心経も参加者全員で歌われる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) お見舞いに行ったり、町で家族に出会うとお話を伺ったり、入所時と変わらない家族支援を心掛けている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向や意思を大切に自分で出来る事を増やしなが ら、利用者の生き甲斐を求め、楽しく過ごす支援をしている。  (外部評価) 利用者の方からの提案で、般若心経を唱える時間を持って おられる。午前・午後、一日2回、玄関のスペースに集まり、 お釈迦様の掛け軸とろうそく型のライトを灯し、お経のCDを 流しながら唱えておられ、利用者の心穏やかな暮らしにつな がっているようだ。又、歌がお好きな利用者が多く、事業所 に歌本を用意して歌って楽しめるように支援されている。入 居後、「帰りたい」気持ちが強いので、ご自宅での暮らしに戻 られたが、暮らしに難しさもあり、再度入居に至ったような ケースもある。2ヶ月に1回はご自宅に戻れるよう、ご本人はご 家族と約束をされているようだ。	事業所は、利用者が選択しながら生活できるような支援に力 を入れて取り組もうとされている。職員が日々の中から知り得 た情報を集められるような仕組みを作り、介護計画につなげ て利用者の暮らしの希望に沿った支援をすすめていかれて ほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回訪問で得た情報や本人の趣味、体力にあった活動が 出来る環境を作を支援する。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送りや職員会、家族、友人等の交友で得た情報の活 用、日内で状態の変化が見られそうな人は数日前からの経 過内容を検討し対応する。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>面会やイベントには家族の思いを聞いたり、ささいな事でも本人が自立できる事を喜び、今後の可能性についてもモニタリング、カンファレンスをしながら本人の自立に向けて目標作りする、各担当者が中心でプラン作成をする。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者やご家族にケア等の希望をお聞きし、カンファレンス時に職員で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成されている。外部講師からの提案もあり、居間のホワイトボードには、利用者の名前と時系列の表を作り、「般若心経」「入浴」「受診」等、一日の過ごし方の表を作っておられる。ゆくゆくはボードを使って、利用者と一緒に一日の過ごし方を相談して決めたいと話しておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員全員が毎日の目標達成には「日々の記録」で達成の結果を記録し自立や生き甲斐に向けて介護している、達成項目や新たな目標の発生をプランに生かすよう担当者の提案を生かす。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>どのように生きて行こうとされているか？利用者の意思に沿った思いが実現できる支援に取り組む、今まで出来なかったが施設に入れば出来る事もいっぱいある。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域資源の情報を調査しながら近所の人や公共のボランティアのどの協力を得てマンネリ化しない生活を目指す。職員は日頃から利用者を深く観察し、本人の意欲や表情で満足度がわかるよう力をつけ、教養、娯楽にも知恵を借りてゆく。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>バイタル、観察などの記録で日常の健康管理をすすめ、機能回復に努め体調の低下を防ぐよう利用者個別に検討する。かかりつけ医は本人の希望を尊重し継続しても良い、本人、家族と相談し進める。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>協力医への受診を支援されている。調査訪問時の昼食中、様子がいつもと違う状態の利用者があり、協力医に電話し受診に出かけていかれる様子がみられた。ご家族にも連絡して一緒に付き添われたようだ。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自分の足で自分の人生を生きたい願望があり、願望が達成できなくても出来る限りの自立生活を支援する。看護師はその時々的確な判断をアドバイスを頂き安心して介護出来る</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>やむなく入院の時は治療に専念にして頂き洗濯物を取りにゆき症状の治癒状況を看護師に聞いてくる。カンファレンスにも参加する時もある。病院と連携し施設生活を進める。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>死を否定的にとらえず、その人らしい生き方を支援、最後までその人らしく生きる様援助したい。医療と連携しながら家族の理解があればターミナルに行く、家族用の部屋も施設内にある。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所では、利用者やご家族の希望があれば、看取りまで支援したいと考えておられ、遠方に住むご家族に泊まってもらえるように、和室も用意されている。現在は、まだ入居間もないため、利用者・ご家族に終末期の希望をうかがうような取り組みは行っていないが、今後、事業所の暮らしに慣れ、よく知っていただいてから、希望をお聞きしたいと話しておられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日頃より研修会などで学び、緊急時に落ち着いて対応できるか？知識と実践力を身につけ取り組む。医療機関と連絡しチーム作りをしながら職員全員で取り組む。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月の避難訓練と、年2回の消防の指導訓練を計画、1回目が終了、防災訓練時に習った通報の手順、被用者の避難誘導等を自分のものとし落ち着いて行動がとれるよう自分の物とし生かせる。訓練には地域の消防団の方も参加指導して頂く。 (外部評価) 玄関にAED(自動体外式除細動器)を設置されており、職員は開設前に使用方法等の講習を受けておられる。11月の運営推進会議時、非常食の試食会を行った際には、消防署や地域の消防団の方にも来ていただき、事業所の見取り図や設備をみていただいた。職員の喫煙場所を決めておられる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人の育った環境の中で育まれたものや各人の暮らし方を生かし。利用者独自の生活や価値観を理解し尊重するように努力している、個別ケアをする中で自尊心と生き甲斐を大切に支援する。 (外部評価) 食事にあまり関心を示さない利用者がおられたが、職員と畑にきゅうりを収穫に行かれた時には、利用者が自ら、「包丁はあるかな」と言われ、きゅうりをご自分で乱切りして食べられたようなこともあったようだ。調査訪問時には、ご本人が希望されるようで、寝間着で過ごす利用者が複数おられた。職員の利用者への対応等については、理念にも沿って時々点検するような仕組みを作ってはどうだろうか。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より利用者の個別性に合わせた介護ときめ細やかな観察力で対応している、自尊心を生かし自由に発言できるよう同じ目線で対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さんと一緒に1日のスケジュールを決め無理のないよう時間に余裕をもって過ごして頂く。自分が納得したスケジュールでも気が向かない時はその時々で変えてゆく。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床後、衣類をそれぞれ2枚準備し、着る服をえらんでもらう更衣する。寝癖の髪を整えたり身だしなみやオシャレのアドバイスもする。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の出来上がり(色どり)やメニューが偏らないよう気を付ける、本人が嫌いな物は料理の代替えして提供する。食後の片づけ台拭きなど利用者の出来るように手伝ってもらう。食後はコーヒーでくつろいで頂く。 (外部評価) 現在は、その日食事を作る担当職員が献立を立て作るようになっており、利用者の希望を聞く機会はあまり設けておられないようだ。火・木・土曜日は魚屋から新鮮な魚が届くようになっていいる。魚があまり好きでない利用者もおられたが、食べるようになられた方もいるようだ。ユニットごとに献立が違い、お嫌いなメニューの折りには、別ユニットで分けてもらう等して代替えされている。調査訪問時には、昼食前に口腔体操を行っておられた。ご夫婦で隣同士に座り、奥さんがご主人に声をかけながら食事される様子がみられた。ご自分の食器を下膳されたり、洗い物をする利用者や、ユニットによってはみな食器をワゴンにまとめて下膳する利用者の様子もみられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者さんが完食出来る分量で用意し、水分摂取量の少ない人は汁物で量を取ったり、お茶の代替えの準備する。牛乳、ジュースなど、トータルで水分量を見分ける。体重測定、排泄チェック表も参考に食事摂取量を参考に配膳する。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る事をしてもらい、毎食後、口腔ケアし汚れがおちてない所は介助する。歯間ブラシ、コップは週1度除菌し清潔の保持をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	排泄量や排泄頻度(チェック表あり)でトイレ誘導し出来る限りトイレで排泄できるよう介助、自立した方には失禁で自信を無くさない声かけする。体調不穏時はPTも使う。布パンツとパットの併用など機能を維持する支援をする。	
			(外部評価)		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	排泄チェック表を活用したり、オヤツに排泄効果のある乳製品や果物を取ってもらう、水分を多く摂取する。	
			(外部評価)		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	毎朝、利用者さんに入浴時間を決めて頂き、希望時間に入浴ができる。入浴が無理な時やその時の状態で足浴、清拭などで清潔保持に努める。入浴拒否の方は原因を家族に聞いたり対応策を考える。	
			(外部評価)		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	日中に眠むたそうな時は居室で静養して頂く、夜間も良眠できるように体調に合わせて休息して頂く、外出、歩行体操なども取り入れ体を動かよう声掛けする。。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 通院の時、薬の説明書で薬の目的、効能、用途を理解し、利用者の状態を観察しながら変化の確認や報告等を申し送りしてゆく。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者が出来る事などを生活歴をなどで活用し、台所の手伝いなど利用者にあった仕が機能訓練につながるよう、施設の中で必要な人である事を感謝したり生き甲斐を感じてもらおうよう支援する。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 歩ける人はごみ捨て、買い物、散髪など外出の支援する、車いすの方は外気浴などで季節を感じて頂く。朝に決める予定表は本人の希望で動く事が出来る。 (外部評価) 近くのお地藏様や観音様を歩いてお参りに行けるよう支援されたり、駐車場のとなりにある菜園に野菜を収穫に行かれることもある。利用者の希望で4名の方が町内で開催される「乙亥大相撲」を見に行かれ、とてもよい笑顔で戻って来られたようだ。今後、敷地の砂利敷きの部分を一部舗装する予定があり、車いすを使う方も通りやすくなるようだ。ホワイトファームのレストランで、利用者の誕生会を行ったこともある。利用者は、お好きなケーキを選び、お茶を楽しみながらお祝いされた。	さらに、利用者と地域とのつながり作りに向けて、外出するような機会を積極的に作っていかれてほしい。外出がお好きな利用者もおられ、ご家族や地域の方達の協力も得ながら、楽しみ作りや気分転換の機会作り等も支援していかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人で持っている方は本人の希望に応じて買い物に外出する。出来ない方は預かり金で買い物を声かけする。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠距離の家族や帰宅願望の方には電話で会話しながら家族の声で安心される。面会できない人は個人通信などに情報を載せる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>モップ等で掃除し利用者さんも協力して頂く。浴室トイレは汚れたらすぐに掃除する、居心地の良い施設ですご過ごせるよう、換気や空調で体温等の調節に役立つ。周囲の観音様、池畑等をみながら季節を感じて頂く</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前のポーチには車を付けることができ、雨の日も利用者がぬれることなく車の乗り降りができるようになっている。敷地内には、近々デイサービスが開設されるようになっている。玄関には、たたみ貼りの長椅子があり、調査訪問時には、クリスマスのタペストリーと隣り合わせでお釈迦様の掛け軸をかけておられ、りんの代わりに風鈴を鳴らすように準備されていた。居室入口や共用空間の扉は三枚扉の引き戸で、開口が広く取れるようになっている。台所と浴室が近い造りになっている。建物の周りを回れるようになっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室外でも自分だけの居場所や皆と共有できる場所をその時の状況で声掛けする。カーテンや壁画も気分転換になる。ホール内は好みのスペースを自由に移動したり他ユニットにも自由に移動できる。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入所の際に使い慣れた物を持参頂き、使い慣れた物で少しは安心できる。棚や本、写真では思い出を大切に過ごされる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の窓は、座って外を眺められるよう低めに造っており、山々の様子が見えることを利用者は喜んでおられる。ご家族との写真や、以前利用されていた介護施設でプレゼントされた写真を飾っている居室もみられた。夫婦で使用する居室には、1部屋にはベッド、もう1部屋はテレビ等をみながら過ごす部屋を作っておられる。ベッドやタンス等は備え付けとなっており、寝具はリースを使用されている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>畳み、ベット、で就寝の自立と安全性の確保。トイレには縦、横の手すりの設置、消灯はリモコン操作、トイレ内で介助ブザーなど出来る事は自分で押す、多くの補助具で安全に自立できるよう支援。</p>	